

# ちば里山新聞

(第60号)  
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148  
 ☎ 0438-62-8895  
 題 字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

## チェーンソー作業リーダー育成講座の 岡部塾が終了しました…

岡部塾は木の伐倒技術を長年の実践と経験にて積み上げた、ちば里山センター理事の岡部正史氏が講師を務め、里山活動団体に事故を起こさないことを目標に掲げ、森林整備活動でチェーンソーを使用した作業に於いてプロに劣らない技術を身に付け、現場で「Yes!」、「No!!」とハッキリと安全指示ができるリーダーを育てることを目標としていて、講習は全6回でレベル1から5までとなっています。今回の受講生は3名です。



岡部正史講師米沢の森にて



まず根張りを取り



受口中心より追口の  
 高さで突っ込み切り



追口を入れ直ぐクサビ



二俣杉を見事伐倒

第1回は11月15日(日)君津市鹿野山にて基本的な杉の伐倒ですが、台風で傾いたり二股になっていたりして最初から難易度は高いものになっています。森林伐採にあたりチェーンソー以外に腰に携行したい道具として、短めのクサビ2個、クサビ打込用にトビ付きハンマー(トビは伐倒した木のチョットした移動に使えます)、木の造材用にピン留め付メジャー出来れば15m、玉切り後の移動用トングなどが岡部講師のおすすめです。受講者にそれぞれ倒したい杉を選び受け口の作り方、根張り取り方、追い口の入れ方を学びながら▶方向に伐倒し、倒れた方向のズレ、切り口のツルの状態を診て、反省点の指導を受けました。倒した木は荷重の懸かっていない枝より払い、最後は荷重を観ながら安全に枝を落としたあと玉切りします。写真左は幹の途中で二俣になった杉で重心が分かりづらく、かなり難易度が高い杉を岡部講師が伐倒した時のものです。



腰に携行したい道具



ロープ式ウィンチ



折れた倒木は末端より



股掛かり幹は慎重に

第2回は11月28日(土)同じく鹿野山にて台風被害で穂先が飛んだスギをロープとロープ式ウィンチを利用しての伐倒方法です。まずスローラインにて伐倒木の幹にロープを通し、アンカー(元)は伐倒方向の木にティンバーヒッチ(ねじ結び)で固定し、V字に掛けたロープは滑車経由にて伐倒木側でロープ式ウィンチを引くのでロープはN字型になります。伐倒木をあえて結ばないのは、もし掛り木などになった場合ロープ回収を容易にする為です。伐倒は追口がある程度進んだ状態で伐倒者の指示で牽引していきませんが、お互いの息を合わせ最後は牽引にて倒すようにします。

第3回は11月29日(日)市原米沢の森にて広葉樹の台風被害木の処理です。写真のように折れた幹枝が逆さに掛かり地面に着いている場合は末端の細枝より処理していきます。最後に又引掛かった幹を慎重に引き離します。次に折れて枝元が離れず残って逆さに残っている枝をスローラインにてロープを掛けて滑車経由にて強力なエンジンウィンチを使い牽引にて引き離し、処理しました。



遊歩道を塞ぐ風倒木



エンジンウィンチを駆使

第4回は1月31日(日)前回と同じく市原米沢の森にて前回コナラの枝に掛かった杉を牽引したが外れないので今回は掛木部分をスローラインにてロープで固めてコナラを伐倒し、何とか処理しました。午後は御十八夜遊歩道入口付近を塞ぐ、台風被害木の処理です。倒れたコナラの枝の末端を処理してエンジンウィンチの登場です。コナラの枝木の元が上に掛かって牽引しても容易に外れないのでウィンチのテンションの緩急による岡部講師の技で安全に引き落とすことに成功しました。2本目は長い幹でウィンチの牽引にてロープテンションを掛けた状態での玉切りにて順次処理していき



浮き倒木は上部にVカットを入れて

第5回は3月14日(日)市原米沢の森で最後の仕上げとしてチェーンソーワークの基本を見直し、お昼はみんなでBBQを楽しみました。後日、受講者には終了証とヘルメットに貼る受講終了ステッカーが送られました。次回は Advance を目指してほしいです。



受講終了ステッカー

**里山じまん ⑥**  
**鴨川里山を守る会**

**鴨川市における山林整備の『お助け隊』!**

会の設立は平成16(2004)年なので活動は17年になります。会員は18人(男17、女性1)いますが、一人の女性は現場には行けないけれど山も森も木も好きだからず〜と会員にしておいてほしいと、後期高齢者ですが名を連ねています。平均年齢は69歳と5か月(最高80歳、最低47歳)です。

作業日は月に1回のみで土曜日/日曜日を隔月に行っていて、予定日が雨だと1回のみ次の週に延ばしています。作業当日は毎回手弁当ですが、冬の時期の楽しみとして会員の手作りの熱々のトン汁が出ます。材料費は循環資源回収資金で賄っています。



どこから手を付ける?

令和元年台風15号の被害



個人の山で傾いた杉の大木処理

作業実績としては(H31年4月~R2年3月):参加人数延べ83人(7.5人/日)スギ伐倒193本となります。定例の作業現場は現在2箇所あり、県の法人の森1.66haと個人の山約5haで夏休みの8月を除いて法人の森は4月から10月まで、個人の山はヤマヒルが休む11月から3月が作業月となります。それぞれスギの間伐を行います。清澄山系の個人林は傾斜がとてもキツイです。要望があると個人の庭の「半端ない」高木を伐倒することもあります。最近では苗木をしばらく植えてないなあ〜。昨年は労働安全衛生規



きつい傾斜の中でも

則改正によるチェーンソー補講をコロナ渦をぬって受講しました。会の課題としては会員の平均年齢を下げることに地元会員を増やすこと(最近では鴨川に移住して下さった方が山林荒廃を憂いての入会者が多くあります)。作業日を月2回にするとか、作業班を2班構成にしたい。ヤマジョウ(山女)に入会してもらいたい。ホームページにブログの継続アップをしていきたいと思ひます。

少し高齢でも急勾配をものともせず、ちゃんと保護ズボンを着て山林保全にいそしみ、「山の気」を貰ってリフレッシュして、頑張っていきたいです。

(鴨川里山を守る会 会長 川井健司)



防砂林として松苗を植える

## 第1回『ちば里山アワード』の表彰決まる!

**ちば里山大賞(最優秀): 松戸里やま応援団と松戸市みどりと花の課(松戸市)**

**ちば里山いいね!賞(次点): たろやま会(四街道市)**

千葉県は県の里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例を制定し、市民ボランティア等が行う里山の保全や利活用などの里山活動を支援してきました。ちば里山アワードは森林環境譲与税の導入を契機として、団体・企業等が県内での魅力発信と森林保全の重要性についての県民への普及啓発を図られた団体に対して表彰するものです。

応募は7~9月下旬で行われ13件の応募がありました。一次審査では森林課内で6団体が選ばれ、二次審査にては外部審査委員による審査会にてプレゼンテーション、応募書類、市町村意見等により各賞が決まり、1月13日に第1回「ちば里山アワード」の表彰式が行われました。

最優秀の「ちば里山大賞」は、松戸里やま応援団と松戸市みどりと花の課が応募した「里やまボランティア入門講座から里やま活動への展開」が受賞、里山保全のボランティア講座の受講終了生が中心になって企画運営し、活動の支援に繋がっています。市民・行政が協働して里山ボランティアの育成を行う県内初の事例で、同様の取組が近隣の市町村にも広まってきています。松戸里やま応援団代表野口功さんの挨拶では“私たちは、2003年以來18年間続けてきた里山ボランティア入門講座を松戸市と協働して実施してきました。そこから14の里山活動団体が生まれ、主として市内の民有林で活動しています。今回の応募では特に二つのことを強調し、一つは、講座を修了して里山活動をしている市民が講座の企画・運営の中心を担っていることです。それが受講生に親近感を与え、団体の立ち上げに繋がってきました。同時に、講座の企画・運営は、新たな里山リーダーが成長する場ともなっています。もう一つは、すべての里山活動団体が、緊密に連携していることです。松戸里やま応援団は、コロナの時期を除いて毎月連絡会を開催し、各団体は活動日毎に報告書を発信して、情報を共有してきました。オープンフォレストin松戸は、市内の全里山活動団体が森の所有者団体とともに実行委員会を構成し、松戸市と共催で実施しています。最近では子育てグループなどが一緒に森の体験イベントを開催するなどの広がりを見せています。貴重な都市の緑を守り活かしていくために、これからも「みどりの市民力」を発揮していきたいと思ひます。”と語っています。

次点の「ちば里山いいね!賞」には、たろやま会(四街道市)の「みんなでつくる自然の郷~たろやまの郷へいこう~」が選ばれました。たろやま会の活動は、四街道市の里山保全活動を複数の環境団体の協働により行っており、活動は自然環境保護団体、里山・谷津田の整備管理団体や野外保育を行う団体等、里山をフィールドに活動する様々な団体がそれぞれの得意分野を生かし、幼児からお年寄りまでの世代が参加し実施しています。里山の保全に留まらず、里山の利活用や継続的な保全活動の模範となる優良な事例です。

二次審査まで進み、惜しくも賞に漏れた4団体はいすみ竹炭研究会(いすみ市)、SaToYaMaよくし隊(市原市)、ふるさとネッツ(長柄町)、里山むつみ隊(八千代市)となっています。

(取材協力: 県森林課、松戸里やま応援団代表野口功様)



右より松戸里やま応援団三嶋秀久様、松戸市緑と花の課中山茜様、松戸里やま応援団野口功代表、県農林水産部流通販売担当石塚健生部長、たろやま会任海正衛代表、四街道市経営企画部政策推進課橋本かれん様

## 各種受賞相つぐ!!

- ★船橋市『豊富どんぐりの森』(俊淳一会長) 市政功労賞 環境の保全に貢献されて
- ★千葉市『NPO 法人バランス21』(佐藤聡子代表) 第9回印旛沼・流域再生大賞
- ★千葉市『金親博栄氏(わたしの田舎谷当工房代表)』千葉市産業・経済功労賞

## 里山活動の持続可能性と里山の資源化

SDGs や気候変動への取組みなど社会構造の転換が求められる時代、昨年来の新型コロナウイルスの感染拡大もあって、里山保全のボランティア活動の持続可能性について考えることも多くなりました。林業の衰退、森林・里山の荒廃などの問題は昔から言われていましたが、林業・里山活動の担い手不足に関しても抜本的な解決策がないまま、時間だけが経過しています。

少子高齢化で若者が減り、生涯現役社会の移行が進む状況でリタイア後の人材の参加も限定的となれば、今までのやり方を継続しているだけでは、いずれ活動は縮小せざるを得ません。これといった提言などはできませんが、関係諸団体の連携、人材を含む交流のほか、やはり、「里山の資源化」がキーワードのひとつになるだろうと考えています。



「資源化」とは、バイオマスの利用などによる直接的な「収益化」や、助成金頼みの活動からの脱却だけを行っているわけではありません。都市部ではコロナ禍で散策の場として自然公園や里山が見直されていますし、災害に対するレジリエンスを高めるといふ以上に広い意味で「グリーンインフラ」として身近な里山を位置づけ、地元住民も巻き込んで、企業や学校、色々な人や団体が利用するような場にしていくことも含まれます。人々が集まれば、若い世代を中心に新しい動きも生まれましょう。それを支えるのも先輩(団体)の役割になると思います。里山と生物多様性を守り、自然に触れる、今の活動の意義を否定するものではありませんが、里山団体にもライフサイクルはあるので、組織の在り方や運営方法などを変えていがないと、良くも悪くも「高齢者のサロン」になってしまうだろうということです。



さて、昨年12月、きさらづ里山の会にお邪魔したときに、フィールド内外に植えたクロモジ(写真上)で「精油、お茶、楊枝づくりなどのイベントを開催して活動を活性化。得た収益を活動資金に回して持続可能な運営を目指したい。」とのお話を伺いました。私もFBのコミュニティ「ちば里山\_People」での発信を通して、参加者の募集などイベントの実現に協力したいと、今、具体的にできることを考えています。皆さん、お楽しみに。(ちば里山 People 友塚新樹)

### \*\*\*編集後記\*\*\*

本来60号は2月末発行予定でしたが小生の入院により5月に延びたことを深くお詫びします◆新緑の春から梅雨の時節へと移り行き、ナラ枯れの原因であるカシノナガキクイムシの活動時期にも入りましたので消毒予防は早めに◆またコロナ禍の収束を願いながら。(YA)

### 里山の風にゆられて ⑩



シュンラン<春蘭>ラン科シュンラン属

春に咲く蘭として古くから親しまれ、別名ジジババ、ホクロとも呼ばれている。蘭愛好家には珍しい個体変種を求めて、高値の取引がされているようだが本来の野趣、素朴さを楽しみたいものです。

写真・文 赤松義雄 R3.5.1 袖ヶ浦市しいのもり



### 入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896 (平日9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>